



園長

市川 温 予

朝晩、ぐっと冷え込むようになりました。

昼の気温と夜の気温の差が大きい季節は、子どもの体力にはきつい季節です。夜にはもう一枚着せるなど、きめ細かい気遣いが必要です。夜の冷えは日一日と強くなりますので、寝冷えには十分に気をつけ、保温するように心掛けていきましょう。さて、今園庭では、跳び箱に挑戦している子がたくさんいます。一つは6段、もう一つは、3段から4段です。どちらの跳び箱を跳ぶかは子ども達が選んでいます。一生懸命に跳んでいる子の姿を毎日じっと見ている子もいます。5歳児は何度も挑戦して、跳べるようになった子が数人います。跳べた瞬間、その子はもちろん、周りで見ていた子も自分のことのように「うわー。跳べたー。すごい。」と手をたたいて喜んでいました。跳べた子は自信をもってまた繰り返し跳んでいました。大きい子のしていることをじっと見ている3歳、4歳児さん。じっと見ただけでその子の内は育ちます。自分で出来そうでないことでもうらやましくて、その目は真剣そのものです。そんな時間がとっても大切です。やりたいという気持ちがいっぱいにくらんではじけるまで待つことが子どもにとっての一番の栄養です。また、“できる、できない”ではなくできるようにするまでの過程が大切です。これから挑戦する子ども達ができるようになるまでの過程を大切に先生達がいかに豊かな言葉をかけてあげられるかが大事だと思っています。



## うさぎ組（2歳児）の電車ごっこは学ぶことがいっぱい

うさぎ組の電車ごっこは、うさぎ組のお部屋から園舎全体、そして園庭、お散歩先へと広がり、はじめはうさぎ組だけで楽しんでいたのですが、少しずつ大きいクラスにも広がりいろんな年齢が混ざって楽しむようになりました。

仲間（うさぎ組からいろんなクラスへ）、

時間（たっぷり、のんびりした時間）、

空間（お部屋からいろんな場所へ）と

この3間が大切だとあらためて感じました。いろんな年齢の子と繋がり、いろんな空間、時間を共有して過ごすことが必要です。子どもはいろんな人と関わり、いろんな遊びを通していろんな力を身につけていきます。

うさぎ組の先生達も楽しみながら日々の保育を計画し、子ども達の「楽しかった。おもしろかった。また、明日も遊びたい。」という心からの声を楽しんでいるようです。

私は、保育園時代というのは永い、永い人生の中でも何にもとらわれず心から無邪気に遊べる、夢中になれる、とっても大切な時期だと思っています。

「元気に・楽しく・おもしろく」です。

